

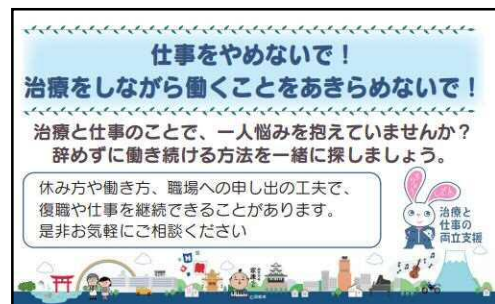
【コラム】 浜松医療センターの取組み

がん治療専門医を軸とした、臓器横断的な対応

がん診療連携拠点病院の責務として、各臓器の主要ながんに対して最善の治療を受け
る機会を提供すること、そして希少がん^(※30)や原発不明がん^(※31)などいわゆる「がん難民」になりやすい疾患についても、他院との連携を通して適切な選択肢を示すことが重要と考えています。2022年4月から「がん薬物療法専門医^(※32)」を採用しており、専門とする肺がん治療のさらなる向上に加えてさまざまながん種への各専門科での対応を、がん看護専門看護師^(※33)/がん化学療法看護認定看護師^(※34)と共に臓器横断的にサポートできる体制を目指しています。近年のがん治療の発展の中心は免疫療法^(※35)、分子標的薬^(※36)ですが、さらに今後は新しい機序である抗体薬物複合体^(※37)が多くのがん種で使われる見込みです。このように年々多彩化・複雑化するがん治療にできる限り迅速かつ適切に対応し常に最新・最善の治療を提供するためにも、このような体制は有用と考えています。

がん患者が諦めなくとも良い社会を目指して

もはや「がん」を理由に諦めることを前提とする時代ではないと考えています。がん治療の進化と共に長期生存者は増えつつあり、このような患者を増やす努力は当然として、加えて長期生存者が治療後の生活に苦慮する状況を回避するもことも重要です。このような視点から、現在「がん治療と就労の両立支援」活動に力を入れており、医師、看護師、社会福祉士によるチームが中心となり、患者の雇用環境や希望、経済状況などに沿った柔軟な支援ができる体制を構築し対応しています。仕事には経済的な面だけでなく、時に夢や希望も含まれていると考えており、今後もさらに活動を拡げる方針です。また、医療者や家族とは違う側面からの新しい支援になるがんサロン^(※38)「ひなたぼっこ」を定期的に病院主導で開催し、がん患者が横の繋がりを持つ機会を提供しています。当院はさまざまな方面からがん患者を支援できる病院になりたいと願っています。



地域のがん患者がより多くの可能性を持てるように

がん治療の進化は日進月歩であり、たった今も多くの期待の新薬が開発中です。このような新薬は主に「臨床治験^(※39)」を通して開発されますが、同時にこのような「臨床治験」はがん患者にとって、既存の治療を超える新しい可能性への貴重な機会です。当院ががんゲノム医療連携病院として行うがん遺伝子パネル検査^(※40)も、結果に応じた「臨床治験」に到達することで本来の力を発揮できますが、残念ながら静岡県西部地区からアクセスできるがん治験は現在限られています。このような状況の改善に貢献するため当院は体制を整え、2023年7月から進行期非小細胞肺癌を対象とした有望な新薬の国際共同治験に参加することに成功し、現在健康保険ではまだ使用できない新薬を用いた治療の機会を提供しています。今後がん患者に少しでも多くの選択肢と可能性を提示できるように、東京・大阪等との差が少しでも小さくなる一助になるように、と当院は考えています。